

# エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

道根 淳

## 1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、調査結果の詳細については、後述する「平成26年度の漁況」に記載した。

## 2. 研究方法

### (1) 漁業実態調査

当センター漁獲管理情報処理システムによる漁獲統計と各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行った。

### (2) 資源生態調査

JFしまね大田支所および仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から本種の殻高組成を推定した。また、村山・由木が求めたAge-length Key<sup>1)</sup>を用いて漁獲物の年齢組成を求め、さらに日別漁獲データをもとにDeLury法による資源解析を行った。

## 3. 研究結果

### (1) 漁業実態調査

2014年のエッチュウバイの漁獲量は74.4トン、水揚げ金額は3,585万円であった。また1隻当り漁獲量は18.6トン、水揚げ金額は896万円であり、平年に比べ、漁獲量は12%、水揚げ金額は14%上回った。

利用している漁場は、浜田沖から日御碕沖にかけての水深200~230m付近であり、前年利用のあった東経132°10'線より西側および132°30'線より東側での漁場利用がなく、操業範囲は前年より縮小した。

エッチュウバイの1kg当たり平均価格は481円であり、平年を21%上回った。各銘柄の1kg当たり平均価格の最近年の推移を見たところ、全ての銘柄で価格は上昇傾向にある。

### (2) 資源生態調査

資源状態の指標となる1航海当たりの漁獲量は737kgで、平年を54%上回り、平成元年以降最高の水揚げとなった。また、1航海当たりの漁獲個数は15.8千個で平年を46%上回った。1航海当たり漁獲個数の推移を見ると、2010年以降増加傾向にあり、1990年代前半の水準まで回復した。

漁獲物の殻高組成をもとに年齢分けを行い、漁獲物の年齢組成を見ると、4歳貝を中心に3、5歳貝が多く漁獲された。年齢組成としては、4歳以上の漁獲が前年を上回り、一方2歳以下の漁獲が前年を下回った。

## 4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばいかご漁業部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限を設定し、使用かご数の制限などの資源管理が行われている。

2014年漁期については、漁期途中に漁獲割当上限(20トン)に達し、操業を切り上げた漁業者がいた。漁業者からは漁獲割当量の増枠を求める声もあり、次漁期開始前(2015年5月)には各調査結果を基に漁獲割当量の再検討を行うこととなった。

## 5. 文献

1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成4年度)，64-69(1991)